

会員の活動紹介

宇都宮市職員生活協同組合

地産地消の取組みについて

宇都宮市職員生活協同組合は、職員の福利厚生事業の一環として、主に物販事業（本庁舎及び上下水道局売店の運営・各種斡旋販売）を行っておりますが、本庁舎売店内の日替わり出店コーナーでは、うつのみや地産地消推進店の「アグリランドシティショップ」が毎月1回出店いただき、宇都宮産の野菜や加工品の販売などを行っています。

また、市が循環型社会の形成などを目指し策定した「宇都宮市バイオマス・タウン構想」の先導的な取り組みとして、平成20年度から行っている「うつのみや菜の花プロジェクト」により製造されている宇都宮産菜種油の販売も行っています。

私も生協では、宇都宮産農産物などの需要拡大に寄与できるよう、今後も継続して取り組んでまいります。



中央労働金庫栃木県本部（賛助会員）

共生できる社会の実現に向けて

<中央ろうきん>は「ろうきんの理念」として、会員が行う経済・福祉・環境および文化にかかわる活動を促進し、人々が喜びをもって共生できる社会の実現に寄与することを掲げています。これまで、アースデイ東京への参加等各種環境保護に向けた取組みや、持続可能な社会の形成に向けた「金融行動原則」に賛同しました。

また、ピンクリボン運動も応援し、全国のろうきんATM・セブン銀行ATMでくろうきんカードをご利用いただくと引出し・預入れ1回につき1円をろうきんが負担し、財)日本対がん協会に寄付しています。

<くろうきんカード>はゆうちょ銀行・銀行・コンビニ等のATM・CDを利用してお引出し取引をした場合の手数料をキャッシュバックしており、実質無料でご利用いただけます。（回数制限があります）

今後も、会員の信頼に応えられる福祉金融機関としての責任と役割を果たしてまいります。

栃木県生協連内部の国際協同組合年ワーキングチーム

次世代のリーダー育成のために

昨年8月から、栃木県生協連の9会員から11名の中堅職員の方を推薦してもらい毎月1回夕刻から、学習会を行っています。宇都宮大学農学部原田淳准教授、同神代英昭准教授の助言をいただきながら、県内にも様々な事業を営む生協があり、相互に理解することを大切に、次世代リーダー層の中堅のメンバーに、協同組合の理念や役割を、事例を基に考え続けて貰っています。

すぐ結果が伴う場ではありませんが、次世代育成のために国際協同組合年を機会に促進していければと考えております。



栃木県生活協同組合連合会 広報紙

発行日 2012年6月15日

Vol.12

とちぎの生協

栃木県生活協同組合連合会

〒320-0052 栃木県宇都宮市中戸祭町821（栃木県労働者福祉センター6F）

TEL: 028-624-6650 FAX: 028-624-6652

<http://homepage2.nifty.com/tochigikenren/>

2012年 初夏号

栃木県生活協同組合連合会 会長理事 竹内明子

今年、2012年を国連は国際協同組合年と決めました。国連では、1957年から国際年を設定して、世界共通の重要なテーマについて、世界各国が取り組むよう1年間を通じ呼び掛けや対策を行っています。今年を国際協同組合年とした背景には、各国における経済格差、更に急激に進む経済のグローバル化により生じる経済的不均衡とそれが引き起こす飢餓や貧困、争い…、そうした様々な不平等な事柄を解消する手だての一つとして、経済社会への一人一人の人間としての主体的参加が必要であり、そのことを現実に行っている協同組合の活動を重視したことがあると言われています。更に国連は、協同組合は人々の経済社会開発への最大限の参加を促し、持続可能な開発、貧困の根絶、都市や農村における様々な経済部門の生計に貢献出来る事業体・社会的企業であると評価しています。

協同組合形成の歴史を振り返ると、1844年にイギリスで消費者協同組合ロッテデール公正先駆者組合が誕生したのを皮切りに、19世紀中にはドイツの信用組合、デンマークの農協、フランスの労働者協同組合などが結成されています。20世紀に入ると、保険、医療、住宅の協同組合も生まれ

ました。また日本においては、江戸末期に生まれた大原幽学の先祖株組合、二宮尊徳による報徳社が農業協同組合のルーツとなります。生活協同組合に関しては、明治時代にロッテデール原則に沿って創られた消費組合が基になっており、それを賀川豊彦さんが中心となって、本格的な組織へと発展させました。

それぞれの協同組合の創設された経緯や時代は違っても、困窮する暮らしを自分たちの力で協同して改善して行こうとする人々の社会的経済的な活動が根底にあることに変わりはありません。協同して乗り越えるという源にある想いを大切にしながら、協同組合は発展してきました。そして協同組合は、発足の経緯からもコミュニティ、平和、民主主義を尊重し、それに降りかかる様々な問題に対して、協同組合間で連帯して取り組むことを重視してきました。

国際協同年に当たって改めて、協同組合の重要性を認識し、私達の置かれている現状を良いものとして行くために、様々な人々と助け合い、協同しながら、前進して行くことが大切であると思っています。

2012年は国際協同組合年です

協同組合がよりよい社会を築きます

国際協同組合年記念「協同組合まつり」

「みんなでつなごう、協同組合の輪！」

■日 時: 2012年6月23日(土)午前10時～午後3時
■会 場: 宇都宮市マロニエプラザ大展示場
■主 催: 国際協同組合年栃木実行委員会
■後 援: 栃木県



国際協同組合年の取り組み

2012年は国連が定めた国際協同組合年です。これは世界が抱える貧困、金融・経済危機、食糧危機、気候変動などをはじめとする現代社会の重要課題の解決に向けて、協同組合が大きな役割を果たすことを期待したものです。一年を通じて世界共通のスローガン「協同組合がよりよい国と社会を築きます」のもと、国と各都県で対策や呼びかけを行うよう取り組んでいます。

栃木県では、昨年9月22日県域12団体からなる国際協同組合年栃木県実行委員会が設立されました。現代における協同組合の価値や役割について広く県民に知っていただくことを目的とし、最初の事業として12月17日とちぎ健康の森にて東京大学名誉教授、神野直彦先生をお迎えして「日本の未来と協同組合の役割」についてご講演いただきました。行政関係者をはじめ、実行委員会参加組織の役職員、組合員と多くの方々の参加があり大変有意義なものとなりました。今後も関連した事業を随時すすめてまいります。



「協同組合まつり」開催～スローガン‘みんなでつなごう、協同組合の輪！’～

国際協同組合年栃木県実行委員会では、第2弾の事業として「協同組合まつり」を開催します。県内では東日本大震災の影響が未だ続いており、広く地域から協同組合の役割を果たして行こうとの思いを込めた企画としました。今回は協同組合を広くアピールするため、お子さんから大人まで多くの県民の皆様にご来場していただけるよう、数々の催し物を準備してお待ちしています。



開催日時 宇都宮市 マロニエプラザ大展示場
(北側2/3使用) & 屋外展示場

出展団体 栃木県・JAグループ・生協連合会グループ・
労福協関係団体・森林組合連合会・
漁業協同組合連合会など

被災者支援活動の取り組み

東日本大震災から一年以上経過しましたが、被災者の方々の中には未だ不安を抱え避難先で不自由な暮らしを送っている方が多くいらっしゃいます。栃木県生活協同組合連合会では震災当初から現地での支援をはじめ県内においても福島県から避難された方を対象に昨年9月から毎月1回「ふれあいお茶会」を開催して参りました。今回は福島県の仮設住宅で行った「お茶会」の様子を紹介いたします。

いわき市四倉工業団地仮設での「お茶会」

いわき市内には仮設住宅が複数設けられています。その中の一つ四倉町中核工業団地内の仮設は、市内中心部から離れていて地元NPOなどの支援が行き届かないとの話があり、NPO法人宇都宮まちづくり市民工房、栃木県生活協同組合連合会と合同で、いわきNPOセンターの協力を得て、今年3月から仮設住宅の一面をお借りして「お茶会」を月1回土曜日に始めることにしました。

3回目となる5月19日の「お茶会」では、約15名の方が来られてお茶や軽食を取りながらお話をし、手作り折り紙やポプリ入れを作りながら楽しい一時を過ごしました。ポプリ入れを一人で4つ作った方は「孫たちにプレゼントしたいわ」と笑顔を見せて下さいました。

ご夫婦で参加した方からは「家にいると、しゃべることもなくテレビばかり観ている。今日は日頃の想いを聴いてもらえたようで、夫の姿が生き生きと見えます」とおっしゃっていました。

原発事故の関係で避難されている方が多く、震災時の体験、避難所を転々としなければならなかった経験、今後の生活不安なども少しずつお話されています。

帰り際には「今度はいつ来てくれるの。楽しみにしているよ」の言葉をいただきスタッフ一同、改めてつながりの場である「お茶会」の大切さを感じ、今後も続けて行きたいと考えております。



食品安全フォーラムのお知らせ

福島第一原子力発電所の事故以来、放射性物質に対する不安の声は絶えることはありません。そこで昨年に続いて「放射性物質と食品の安全性について」をテーマに開催致します。今年は、4月に食品中の放射性物質の新基準が施行されたこともあり、多くの方に参加いただけるよう県内2会場で行います。栃木県ととちぎ食の安全ネットワークの主催で、県央は宇都宮市との共催になります。県民の皆さんはもちろん生産者、事業者の方々の参加もお待ちしております。

食品安全フォーラム「放射性物質と食品の安全性について」

【基調講演】

- 食品中の放射性物質による健康影響について
内閣府食品安全委員会事務局 リスクコミュニケーション官 篠原 隆 氏
- 食品中の放射性物質の新基準及び検査について
厚生労働省 医薬食品局食品安全部 監視安全課 課長補佐 田中 鈴子 氏
- 放射性物質の水産物への影響について
公益財団法人 海洋生物環境研究所 研究参与 渡部 輝久 氏

【県の取組】

- 農産物等モニタリング検査結果について
栃木県農政部経済流通 マーケティング対策班
班長 宇賀神 正章 氏

【意見交換】

- コーディネーター
自治医科大学
公衆衛生学 教授 中村 好一 氏

県北地区

日時 2012年 6月20日(水)
午後1時30分～4時30分
(開場: 午後1時)
会場 那須塩原市三島ホール

県央地区

日時 2012年 7月4日(水)
午後1時30分～4時30分
(開場: 午後1時)
会場 栃木県総合文化センター
サブホール